

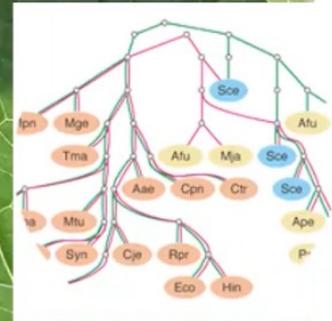
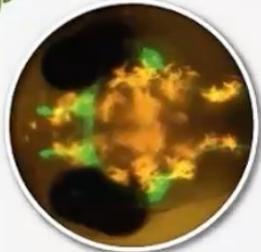
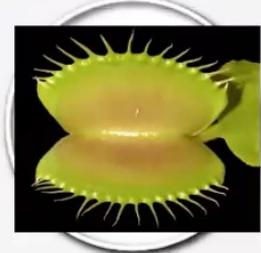
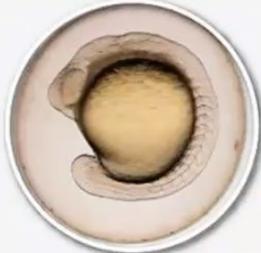
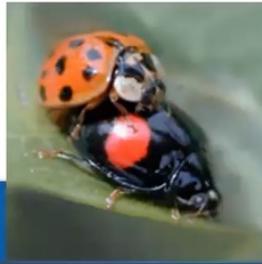


# 基礎生物学研究所 技術課

「化学」 「電子・情報」 「農学」 「生物・生命化学」  
から1名採用予定



# 基礎生物學研究所



# 基礎生物学研究所

大学共同利用期間法人 自然科学研究機構

NIBB 基礎生物学研究所

生命現象の本質を分子細胞レベルで解明する

世界最先端の研究を行い、  
世界の**研究拠点**となる

2016年 ノーベル生理学・医学賞  
オートファジーの仕組みを解明  
大隅良典先生

**共同利用・共同研究**により  
日本の研究力を強化する



# 基礎生物学研究所のミッション

- 遺伝子や細胞の働き、生物多様性獲得や生物の環境応答の仕組みを解明する。
- 新たな研究領域を開拓し、また共同研究の場を提供して国際的な先端研究を推進する。

多彩な生物を用いた生物現象の解明



共通原理や多様性の解明へ

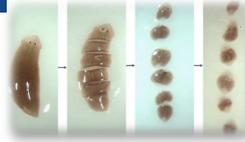
再生



カブトムシ



イベリアトゲイモリ



プラナリア



テトラヒメナ



アサガオ

形態形成



アフリカツメガエル



メダカ



アブラムシ

栄養共生



ミヤコグサ

環境応答



シロイヌナズナ

進化発生

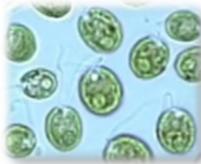


ヒメツリガネゴケ

生殖戦略



ゼブラフィッシュ



クラミドモナス



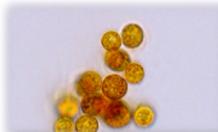
菌根菌



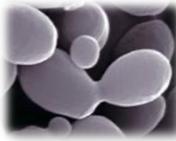
マウス



サンゴ



褐虫藻



酵母



食虫植物



ゼニゴケ

神経生理学

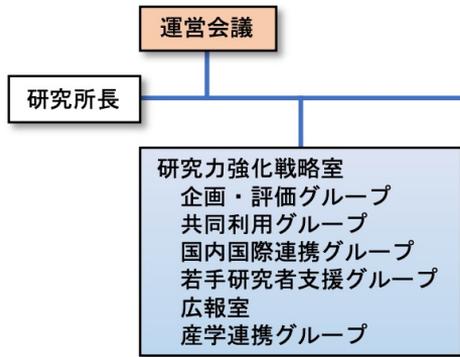
光応答

栄養応答

適応進化

発生生物学

# 基礎生物学研究所の組織と技術課

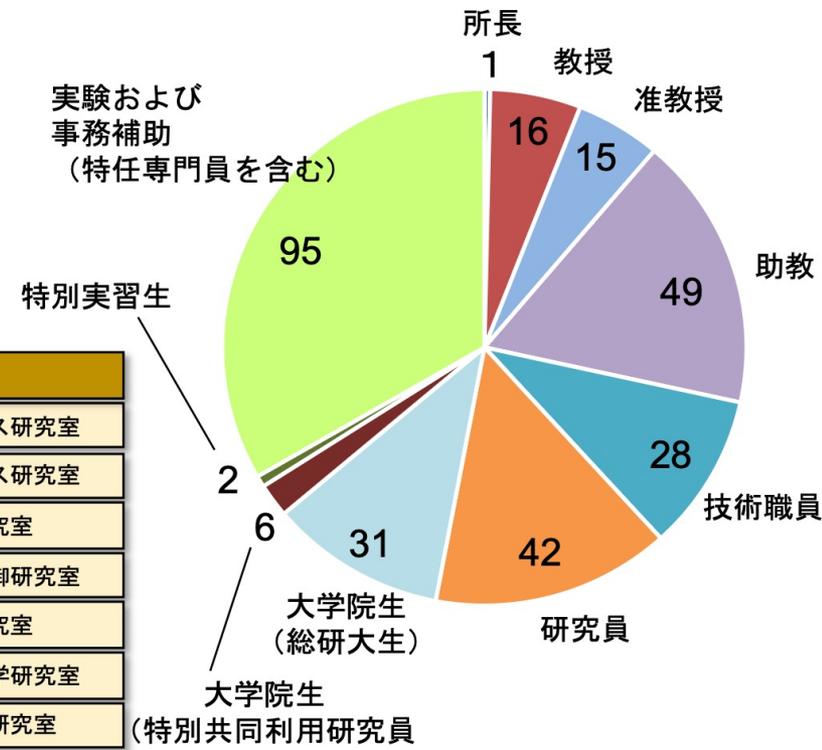


- 研究部門 (12)
- 細胞動態研究部門
  - 定量生物学研究部門
  - クロマチン制御研究部門
  - 生殖細胞研究部門
  - 分子発生研究部門
  - 初期発生研究部門
  - 神経行動学研究部門
  - 生物進化研究部門
  - 共生システム研究部門
  - 進化発生研究部門
  - 環境光生物学研究部門
  - 植物環境応答研究部門

- 分野横断研究ユニット
- 技術課
- 安全衛生管理室

- 研究室 (9)
- 進化ゲノミクス研究室
  - バイオリソース研究室
  - 再生生物学研究室
  - オルガネラ制御研究室
  - 神経生理学研究室
  - 神経細胞生物学研究室
  - 幹細胞生物学研究室
  - ゲノム情報研究室
  - 時空間制御研究室

- IBBPセンター
- 超階層生物学センター
  - 超階層生物学共同利用推進室
  - トランスオミクス解析室
  - バイオイメージング解析室
  - データ統合解析室
  - 新規モデル生物解析室
  - モデル生物研究支援室
  - AI解析室

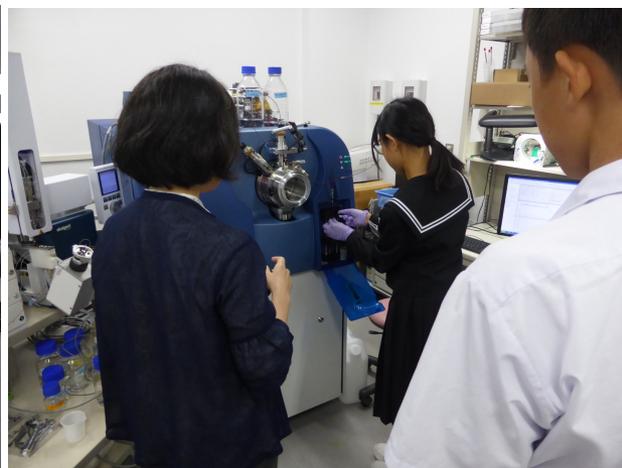


総計 285名

基礎生物学研究所の人員  
(2023年4月1日現在)

# 基礎生物学研究所 技術課

- 技術課は所長に直属した技術職員の組織
- すべての技術職員は技術課に所属
- 高度な専門技術を持って研究支援を行う技術者集団
- 研究施設・研究部門へ配属
- 所内共通機器・安全衛生管理・アウトリーチ
- 技術課独自にミーティング・セミナー・研究会開催



# 技術課の組織と活動

## [組織]

発足：1977年5月、研究所創設と同時に技術課を設置

人数：28名

職階：課長、班長、係長、主任、係員、技師、主任技術員

組織：1課・2班・10係

採用分野：農学、化学、生物・生命科学、電気・電子

採用方法：東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験、選考採用

技術分野：遺伝子工学、生殖工学、発生・分化・再生工学、機器分析、顕微鏡／画像解析、動物の飼育・系統保存、植物の飼育・系統保存、生物遺伝資源の低温保存、情報システム・AI解析、放射線取扱、安全衛生

職務：研究支援（研究施設・設備・機器の管理・運用、実験支援、等）

## [技術課独自の活動]

技術課ミーティング：毎週月曜日8:30～

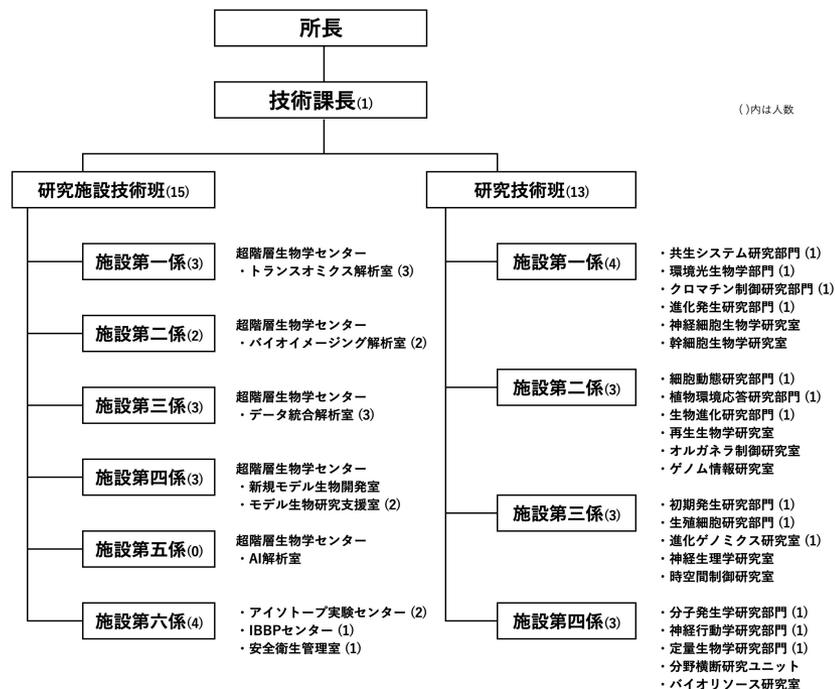
技術課セミナー：技術課ミーティング終了後に1名が担当

技術報告セミナー：毎年11月に2日間、全員が年度初めに設定した目標計画の進捗発表

技術課研修：毎年2回程度開催、今年度は、Office365講習(2023.11.29)、Python勉強会(2024.01.18)

研究会開催：生物学技術研究会、自然科学研究機構技術研究会

その他：所内共通業務（施設整備、共通機器管理、安全衛生、アウトリーチ）



# 研究部門における支援

## ▶ 研究領域技術班（4係）

研究第一係

研究第二係

研究第三係

研究第四係

## ▶ 技術職員13名、主な技術

### 1部門に1名の配属

実験材料の調整

タンパク質の解析

遺伝子の解析

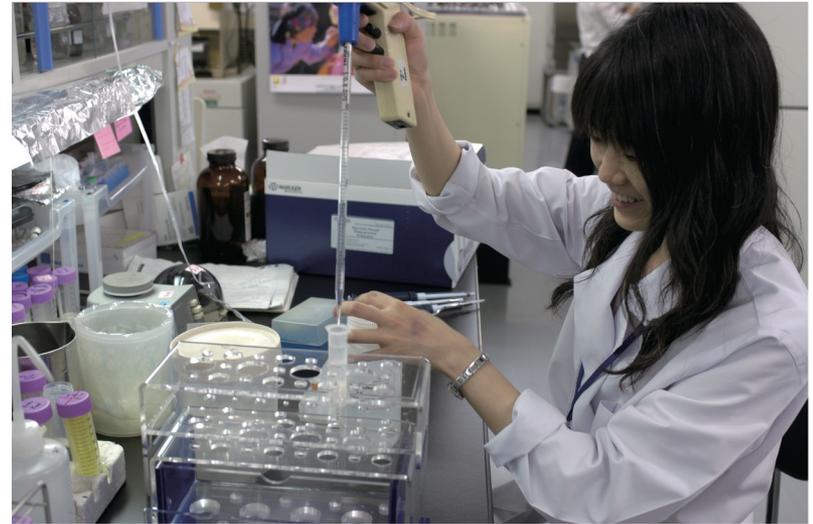
形態観察、画像解析

形質転換生物の作製・維持

細胞・組織培養

実験動物・植物の飼育・栽培

部門内の安全衛生・情報セキュリティ



# 研究施設における支援

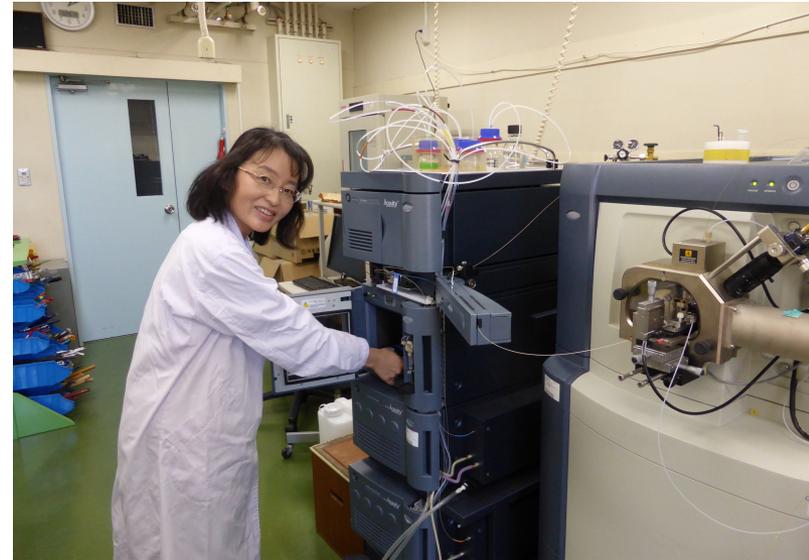
## ▶ 研究施設技術班（6係）

- 研究施設第一係（トランスオミクス解析室）
- 研究施設第二係（バイオイメーjing解析室）
- 研究施設第三係（データ統合解析室）
- 研究施設第四係（モデル生物研究支援室）
- 研究施設第五係（AI解析室）
- 研究施設第六係（RI・IBBP・安全衛生）

## ▶ 技術職員14名、主な技術・業務

### 1施設に1～3名を配属

- 分析機器の保守・管理・測定
- 大型スペクトログラフ、顕微鏡の保守管理
- 計算サーバ、情報ネットワーク・セキュリティ
- 実験動物・植物の飼育・栽培の設備提供
- 形質転換体の開発・維持・管理
- 放射線取扱施設の維持・管理
- 凍結保存施設の維持・管理
- 安全衛生



# 技術課の活動 1

## ▶ ミーティング：毎週月曜日

課長より教授会議や各種委員会の報告

技術課の運営を議論、日常業務の連絡、技術的な情報交換

## ▶ 技術課セミナー：毎週月曜日、各回1名

配属先の日常業務における技術について報告

情報交換、知識の向上に努める

## ▶ 技術報告セミナー：11月、全員

年度初めに定めた技術課題についての発表

技術職員全員による討論・情報交換

技術知識の向上、問題点や改善点の検討

生理研技術課長と相互に聴講・講評

課長・班長にて報告内容を評価



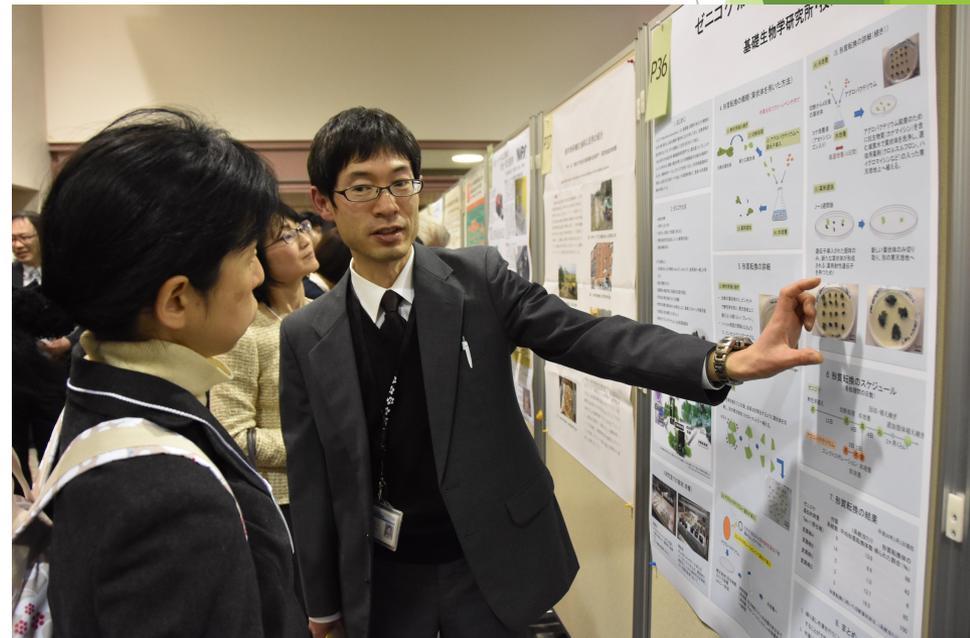
# 技術課の活動 2

## ▶ 生物学技術研究会：2月開催

- 生物学分野に携わる全国の大学・研究機関の技術系職員
- 毎年度、生理学技術研究会と同時開催、およそ150名参加
- 技術交流・情報交換、互いの技術力の向上に貢献

## ▶ 自然科学研究機構技術研究会：6～7月開催

- 国立天文台、核融合科学研究所、分子科学研究所、生理学研究所、基礎生物学研究所の技術職員を対象
- 各研究所持ち回りで開催、
- 異なる分野の研究所の技術職員が技術交流を行い、新たな発想・業務への応用を進める



# 技術課の活動 3

## ▶ 研究基盤を支える共通業務の支援

- 安全衛生管理

化学物質の管理、実験機器の管理、実験廃液回収、防火・防災管理

- 共通機器の管理

純水製造装置、製氷機、試薬保管室、低温室、プレゼンテーション機器、テレビ会議システム、大型プリンタ

## ▶ アウトリーチ活動

- 中学生の職場体験、各種見学対応

- 一般公開、自然科学研究機構シンポジウム

## ▶ 資格

- 第1種衛生管理者16、衛生工学衛生管理者4、第1種作業環境測定士5、高圧ガス製造保安責任者免状「乙種化学」2、特定高圧ガス取扱主任者、作業主任者免状（圧力、X線、酸欠、特圧）5、ボイラー整備士

- 第1種放射線取扱主任者3、危険物取扱者7、毒物劇物取扱責任者5、甲種防火管理4、防災管理者2、自衛消防業務講習修了4、第二種電気工事士、等

# 研修・スキルアップ

## ▶ 技術課内研修

新しい技術の習得、技術スキルの向上、  
技術情報の交換

実習を主に、課内・課外の講師で実施

- ・ テレビ会議システムの活用
- ・ Google workspaceの活用
- ・ グループワーク研修（技術研究会企画に関するブレインストーミング
- ・ Python勉強会
- ・ Office365講習

## ▶ 自然科学研究機構研修

初任者研修～フォローアップ研修

## ▶ 東海地区国立大学等職員研修

係長研修、目的別研修

## ▶ 東海・北陸地区国立大学法人等研修

技術職員研修（生物・生命コース）

## ▶ 放送大学利用による職員研修

## ▶ 総務省情報システム統一研修

## ▶ 科研費（奨励研究）への応募

業務に関連する内容



# 採用までの流れ

- ▶ 第一次試験は試験採用事務所のHPを参照
- ▶ 7月：機関訪問実施
- ▶ 7月末～8月初旬：第二次試験
  - ▶ 書類審査
  - ▶ 面接試験
    - ▶ これまで携わった研究内容および自己PRの発表
    - ▶ 質疑応答
- ▶ 8月中旬：合否通知
- ▶ 10月：内定通知

# 職場環境

- ▶ 専門技術に加えて、研究部門・研究施設の運用に必要な様々な業務を担当。
- ▶ 配属先業務の他に、研究所の共通業務も行います。
- ▶ 配属替えは、組織改変時や本人の希望により適宜実施。
- ▶ 他機関への転勤はほぼなし。
- ▶ フレックスタイム制あり、育児休業は男性技術職員2名が取得。
- ▶ 超過勤務は適宜必要に応じて命令します。
- ▶ 採用後1年、技術習得を目的とした研究施設における実務経験後、正式な配属先を決定。
- ▶ 年に一度、技術課長との面談。
- ▶ 新人歓迎会、忘年会、送別会などの親睦活動も行っています。隣の生理学研究所技術課との合同親睦会も実施しています。